いわて花巻空港SCU活動における地元DMATとしての活動経験／SCU暫定本部長の役割

2015年7月31日、災害医学抄読会 http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/

論文１；いわて花巻空港 SCU 活動における地元 DMAT としての活動経験(渋谷俊介ほか、日本集団災害医学会誌　17：52－55，2012)

・平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災では、いわて花巻空港には SCU(Staging care unit)が開設され日本 DMAT 史上初の広域医療搬送が行われた。筆者らは SCU 解説から撤収までの唯一の地元 DMAT(胆沢病院 DMAT)として活動した。
・SCU 活動としては本部業務を一部担当した以外は近隣病院への搬送調整係として活動した。
・本部業務では筆者らは資機材管理、EMIS(広域災害救急医療情報システム)、MATTS(広域医療搬送患者情報管理システム)管理、クロノロジーを主に担当した。
・DMAT,EMIS、MATTS の登録管理が重なってしまいかなり大変
　→DMAT 活動拠点本部を別に作るべき
・クロノロジーでは、誰も情報を持ってきてくれず、自分で集めることに。人数も少ない。
　→クロノロジー担当人員を増やし独自の情報を集める or 情報収集管理部門を別個に立ち上げ情報をクロノロジーに持っていく、のどちらかが必要
・近隣病院への搬送調整係では、近隣医師との間に親密な関係があったため、スムーズに行えた。
・受け入れ先病院選定では、搬出トリアージからの情報が SCU 受付用紙に書いてある情報だけ
　→少ない。結局独自に班を作り情報収集することにした。
・地元 DMAT はロジスティクス面の仕事を受け持つということを念頭に平時より準備しておくべき。

論文２；SCU 暫定本部長の役割(沢本圭悟ほか、日本集団災害医学会誌　17：56－60，2012)

・平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災では、札幌医科大学付属病院 DMAT は北海道 DMAT の一員として、いわて花巻空港に赴き SCU 暫定本部長として SCU の設営と運営にかかわった。
・主に体制の整備、後着する SCU 本部長への引継ぎという任を負った。
・本部立ち上げについては「HeLP-SCREAM」という略語で実施すべき内容がまとめられている。
・Hello;カウンターパートへのあいさつ
　Location;本部の場所の確保
　Part;初期本部人員の役割分担
　Safety;安全確認
　Communication and Cooperation;連絡手段の確保と連携の確認
　Report;上位本部への立ち上げの連絡
　Equipment;本部機材の確保
　Assessment;状況評価
　METHANE;情報収集とその共有
・(C)岩手県調整本部と胆沢病院 DMAT が連携しているのを利用して、筆者らも調整本部に連絡していた
　→自ら調整本部と連携を確立すべきであった。
・(C)携帯電話、PHS、無線 LAN が利用可。そのため衛星携帯電話の造設なし
　→衛星携帯電話も造設すべきであった。
・(A)到着当時は災害規模不明であった
　→それでも積極的な情報収集をすべきであった。
・SCU 本部の業務内容は多岐にわたるが、多くは SCU 本部が糸の連携である
　→これらの活動を理解したうえで暫定本部長も従事すべきである。